

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	阿久比町児童発達支援事業所てくてく		
○保護者評価実施期間	令和7年12月25日		～ 令和8年1月13日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	10人	(回答者数) 10人
○従業者評価実施期間	令和7年12月1日		～ 令和8年1月9日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10人	(回答者数) 10人
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年3月2日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子どもの育ちや特性について保護者と日常的に共有し、子どもの関わりについて学び合うことができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・親子療育日を設け、保護者自身が考えて子どもと関わる機会を提供し、その時の子どもの姿や気持ち、保護者の心情を丁寧にふりかえり、子どもの特性理解につなげている。 ・2～3か月に1回面談を行い、子どもの姿や育ちを保護者と確認する機会を設けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・単独療育クラスでも保護者ワークを行い、保護者同士で子どもの育ちや育児の相談したり、保護者の仲間づくりを行える機会を設ける。
2	地域の障害児支援体制整備を整える。	<ul style="list-style-type: none"> ・こども家庭センター、公立保育園・幼稚園、基幹相談等関係機関と連携し、地域の発達支援が必要な子どもの把握、多職種による見立てを行っている。 ・てくてくと保育園との並行通所に向けて、体制整備を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・療育につながるまでの支援体制やそれぞれの機関の役割を明確にする。 ・実際に並行通所を行う中で園と連携しながら、対象となる子どもの特性や適切な支援内容について検討したり会議体を整えたりして体制整備していく。
3			

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	ペアプロやペアトシ、専門職種との事例検討を行っているが、強度行動障害を防ぐための研修を特化して行っていない。	<ul style="list-style-type: none"> ・冰山モデルやABC分析シート等の研修を受けているが、実践で生かすことができていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・冰山モデルやABC分析シートについての文献を紹介したり研修案内をしたりして周知をする。これらを用いた事例検討を行い、理論に基づく支援につなげる。
2	保育園との併用通所や保育所等訪問事業等地域の障害児を支える支援が少ない。	<ul style="list-style-type: none"> ・R7年度まで町立園との並行通所は運営上行えない体制になっている。(R8年度から並行通所可) ・保育所等訪問事業等を行う人員配置がなされていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・R8年度より町立保育園等との並行通所が行えるよう関係機関と体制整備や調整を行い、並行通所を実施予定。 ・引き続き移行した子どもに対しては、保育園等を訪問し育ちの確認を行う。 ・保育所等訪問事業の立ちあげに向けた体制整備を行う。
3			